



たか はし さち え  
高橋 祥恵さん

### Profile

宮城県黒川郡出身。宮城大学を卒業後、宮城県保健師として採用。平成24年度から平成27年度まで気仙沼保健福祉事務所成人・高齢班に勤務。

ことがここ気仙沼圏域でも出来るんじゃないか。」と  
思い、平成24年11月14日に開催された委員会で提  
案してみました。

しかし、提案したのですが、この時は森田先生を  
はじめ委員の皆さんに見事にスルーされてしまっ  
(笑)。その後、高橋さんをはじめとして保健福祉  
事務所の皆さんの協力を頂いて何とか完成にこぎつ  
けました。

### 高橋

私は震災後の平成24年度に赴任しましたが、皆  
さんとまだ連携がとれていない時期に、ケアマネ  
ジャーさんの事業所の実地指導をする立場になり  
ました。その時に、チェック項目で「医療との連携は  
どうなっていますか。」と必ず聞くんですよ。そう  
すると、ケアマネジャーさんたちが、「利用者の受  
診同行をしないと、なかなかお医者さんから意見が  
聞けません。」とか、「待ち時間が4時間とか何時間  
もかかってしまって、他の業務に支障を来している  
んです。」という切実な声を聞いていました。「これ  
はただケアマネジャーさんの事業所に文書を出して、  
改めて下さいってというようなことでは、到底解決  
できない何かがあるな。」と感じていました。医療と  
介護の連携がスムーズにいけば、病院の待ち時間  
に時間が費やされないの、患者さんのために何か動  
ける時間が増えるだろうなというのはすごく感じて  
いて、自分なりに何かできないかなと考えていま  
した。その時に、在宅医療福祉推進委員会のメンバー

として参加した際に、ちょうど小松さんが連携をし  
やすくなるためのツールを提案してくださいました。  
私は、実地指導の際に聞いたケアマネジャー事業所  
での現場の声を解決するすごく良い手段だなと思  
いました。これはいいんじゃないかと思ったのですが、  
在宅医療福祉推進委員会では、上手くスルーされて  
しまって検討の場には上がらなかったんですよ。と  
ても残念だなと思い、やはりこれは大事な物なので、  
ツールとして使えるものになったらいいなと思い、  
その次の在宅医療福祉推進委員会で再度私からも  
「在宅医療福祉推進委員会の中でやってみませ  
んか。」と提案をさせていただきました。委員長だ  
った森田先生が、「では検討してみましようか。」と鶴  
の一声というか、後押しがあって、やっと検討が  
できる土台ができました。ケアマネジャー協会の支  
部長をされていた森田先生が、間をとりもって下さ  
ったと思っています。

### 築場

震災後に、「気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉委  
員会」が設立され、お互いに顔の見える関係づくり  
が構築されたことが、基礎となったのですね。

また、当時の委員長であった森田先生が、メンバ  
ーからの提案を「検討してみましよう。」と取り上  
げて下さった。こうしたリーダーの決断があったから、  
検討できる土台となったわけですね。

医師、歯科医師の立場からいかがでしょうか。

### 村岡

先ほどから「スルーした」と言われていましたが、  
困っているということを我々は全く知らなかったの  
で、その必要性が理解できなかったんです。「そん  
なの必要ないよね。」という認識だったわけですよ。  
その後、在宅医療福祉推進委員会が立ち上がって  
いくのと並行で、KNOAH (Kesenuma Network  
of All Homecare-workers ; ノア) っていう集  
まりを立ち上げ、そちらは毎月開催していて、その集  
まりの後に「二時間目」と称した多職種が参加する  
垣根を越えた飲み会があり、その席で困っている  
ことを切々と訴えられました。「外来受診に付いて  
いった途端に『お前何者?』って言われる。」とか、  
「病状聞こうとすると『それはもう個人情報だから  
教えられないじゃん』みたいに言われる。」と。  
言う側の医師の気持ちもわかるんだけど、言われる